

日本語教室内不安の考察 —学習者・指導者双方の視点から—

教育デザインコース 日本語教育領域
會田 篤敬

1. はじめに

第二言語習得において、学習者の不安は学習に影響を与える情意要因として考えられている。しかし、教育実習・模擬授業等の場面において、指導案の作り方・板書等は勉強するが、学習者の不安の対処法を学ぶ機会は少ない。また、実際の教育現場でも、不安の対処法は、各指導者に委ねられている部分が大いのではないかと考える。

このことから、本研究は「学習者が教室内で経験する不安」とその対処法を研究し、「学習者の不安を対処する指導方法」を提案することを目的とする。この目的の為に、3段階（1. 「教室内不安」を把握する段階、2. 「『教室内不安』の対処法」を調査する段階、3. 「『教室内不安』を対処する指導方法」を考案する段階）に分けて研究を進める。本稿は第1段階の研究を取り上げる。

2. 先行研究

第二言語不安は「特定的に第二言語状況に結びつく懸念と緊張の感情」と定義されている (MacIntyre & Gardner, 1994)。一般的に、不安は学習者を妨害すると考えられているが、Oxford (1999) は、第二言語不安には言語学習を妨害する不安 (妨害不安) と促進する不安 (促進不安) があると主張している。しかし、Oxford (1999) は過去の研究を基にこの主張をしている為、実際に学習者を調査しておらず、学習者の認識が明らかになっていない。そこで、「教室内不安」を把握するために、本稿の研究は「学習者が持つ妨害不安・促進不安の認識を明らかにすること」を目的とする。

3. 研究方法

本稿の研究は、6名の中国人日本語学習者を対象に研究を行なった。データ収集は、Google form のウェブ上自由記述アンケートによる。データ分析は、KH Coder を用いて共起ネットワーク図を作成し、抽出語の共起関

係を分析した。

4. 研究結果

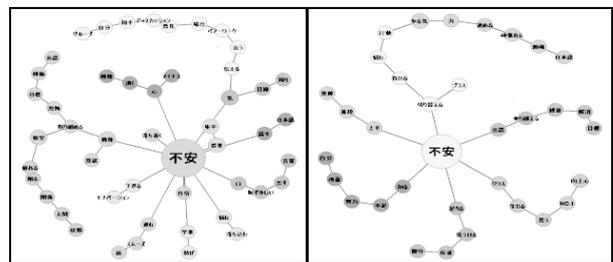


図1 妨害不安

図2 促進不安

共起ネットワーク図を分析した結果、妨害不安では5項目・促進不安では3項目が見られた。

【妨害不安】

- 1. 教室活動 2. 教室内の人間関係
- 3. 学習意欲 4. 他者の視線 5. 教室内発話

【促進不安】

- 1. パフォーマンス 2. 内省 3. 学習を促す障害

5. 考察

本稿の研究では、学習者が持つ妨害不安・促進不安の認識実態を明らかにした。今後はこの2つの不安に着目し、妨害不安を促進不安へと変えることができるのか、またそのためにはどのような教授法が有効なのかを追究していきたい。

参考文献

- Ehrman, M., & Oxford, R. (1995), "Cognition Plus: Correlates Of Language Learning Success", The Modern Language Journal, Vol.79, No. 1, pp. 67-89
- Oxford, R. (1999), "Anxiety and the language learner" IN Arnold, J (1999), "Affect in language leearning", Cambridge, pp. 58-67.